

にしっこ 西っ子のみなさんへ 137 2月15日

きょう 今日、2月15日は「春一番名付けの日」です。

「春一番」とは、春を迎え、初めて南から吹きつける強い風のことを言い、春の訪れを感じさせる気象現象です。

日本の冬には、冷たく強い北風、または北西の風が吹くことが多いです。これに対し、夏には温かく弱い南風が吹きます。季節によって吹く風の性質が異なるため、これらを「季節風」と呼びます。

「春一番」という言葉は、もともとは長崎の漁師の間で使用されていたようですが、1963年2月15日の朝日新聞の朝刊に「春の突風」という記事が掲載され、「春一番」という言葉が初めて全国紙で使われました。

気象庁が定めている「春一番」の定義は、「立春」から「春分」の間に、太平洋から日本海に向かって、10分間平均で風速8m/秒以上の風が吹き込み、前日にくらべて気温が上昇することが条件となっています。

したがって、「春一番」は必ず毎年観測させる訳ではなく、「春一番の観測なし」とされる年もあります。



日本の各地には、その地方独自の特徴ある風が吹きます。この風を局地風といえます。代表的なもの、身近なものとして、次のようなものがあります。

「やませ」 北日本の東北地方において、太平洋側で春から夏（6月～8月）に吹く冷たく湿った東寄りの風

「空っ風」 関東地方を冬に吹き荒れる乾燥した寒冷な北風

「伊吹風」 濃尾平野から渥美半島にかけての地域で、冬に吹く冷たい北西の風

「益田風」 飛騨高山の南部を南北に流れる益田川に沿って吹く北寄りの風

「比良八荒」 3月頃に琵琶湖西岸の比良山系から吹き降りてくる西寄りの強風